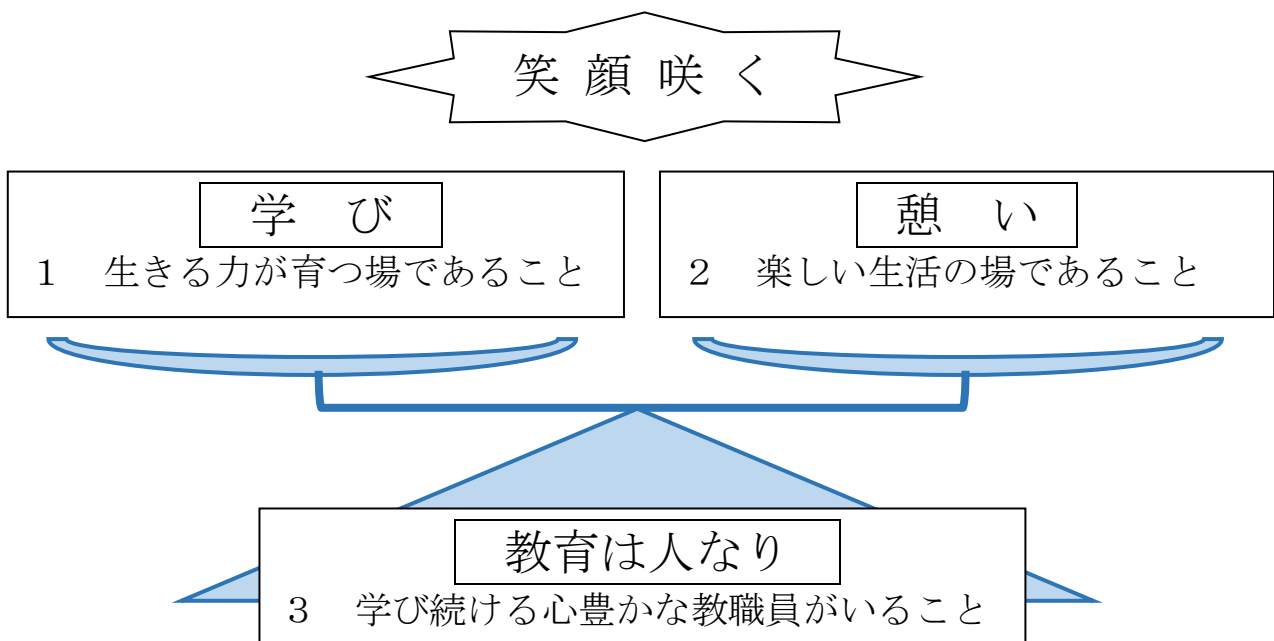


I 学校教育目標「かしこく・やさしく・たくましく」

- かしこく (知) …… 自ら考え 判断し 表現する子  
やさしく (徳) …… 心優しく 思いやりのある子  
たくましく (体) …… 体を鍛え 粘り強い子

II 学校経営の理念 (めざす学校像)

笑顔咲く、学びと憩いの戸塚東小



1 生きる力が育つ場であること

「挑戦したくなる壁、試行錯誤できる時間、乗り越える達成感」

(1) 確かな学力の向上 (かしこく)

- 待ち遠しくなるような授業づくり
  - ・45分ものの連続ドラマであり、毎時間の謎解きがある
  - ・3つの「たくなる」「考えたくなる」「話したくなる」「聞きたくなる」
  - ・深め合うための問いかけがある
  - ・常に思考がフル回転
  - ・失敗から学ぶチャンスがある
- 個に応じた道筋とゴール
  - ・個々の状況とニーズに寄り添う
  - ・ユニバーサルデザインの取り入れ
- 特別支援教育の視点をもつ
  - ・インクルーシブ教育システム
  - ・障害者差別解消法に基づく合理的配慮
- 新しい領域の取り入れ (プログラミング・外国語・道徳など)

(2) 学びとしての心づくり (やさしく)

- 教科としての「道徳」の充実
  - ・悩ませ、議論し、違いを知って認め合う
- 活動して学ぶ特別活動
  - ・「憧れ」と「責任」の異学年交流
  - ・ぶつかり合い、もみ合い、すり合わせ、折り合う体験となる学級会
- 全教科・全領域で関係を保つ

(3) 体力の向上と健やかな体づくり (たくましく)

- 体育授業の充実
  - ・運動好きになるための工夫
  - ・確実に技能を身に着けさせる
- 外遊びの励行
  - ・教員自らが楽しく活動
  - ・体の機能は心の機能
- 健康教育
  - ・望ましい食生活 (食育指導)
  - ・アレルギーへの確実な対応
  - ・タイムリーな意識喚起を

## 2 楽しい生活の場であること

(1) 安全で安心であること (みまもる)

- 感染症対策
  - ・新しい生活様式                      ・マスク、手洗い                      ・活動の工夫
- 施設・設備の安全確保
  - ・日常点検と即時対応
- 教育相談的手法の日常化
- 事務管理
  - ・ダブルチェック・トリプルチェック
- 整理整頓
  - ・事故防止の基本
- 各種マニュアルの整備・検証・改善
- 凡事励行      凡事は第一歩であり頂上である                      平凡を軽視しない

### 教師が最大の教育環境

「時を守り、場を清め、礼を正す」                      最高の模範であり続けよう。

時を守り：授業開始だけでなく終了時刻

場を清め：シンプル    イズ    ベスト

礼をただす：適切な言葉遣い、T P Oに応じた服装

(2) 所属感と信頼関係があること (みとめる)

- 生徒指導の機能が生かす
  - ・自己決定    ・自己存在感    ・共感的人間関係
- 良さを認め、弱さを認め、ともに歩む集団作り

(3) 目的ややりがいと出会えること (みつかる)

- 「やらされている」から「やりたい」へ
- 「わからせる」のではなく「自らつかみ取る」
- 一つ一つの指導が、児童の将来の笑顔のため

(4) 地域や社会と手を携えて進むこと (つながる)

- コミュニティースクール（学校運営協議会）
- 関係機関との連携（警察、児童相談所、市教委、子育て相談課、福祉関係各課）
- 地域団体と連携（町会、民生委員、児童委員、
- 保護者との連携（PTA、懇談会）

### 3 学び続ける心豊かな教職員がいること

（1）基礎基本を再確認しよう ～公務員としての高い意識と誇りが原点～

- 法令、規則、命令の遵守
- 適切な事務管理 ～ 複数チェック、整理整頓、適正廃棄
- 事故防止 ～ 未来を創る仕事である誇り

（2）プロであろう ～私たちは何をやる仕事なのか～

- 「主体的で対話的な深い学び」 確実な学力向上
  - ①意欲を生む環境を整えること
  - ②自ら学ぶ意欲を生むこと
  - ③考える、伝える、受け取る 場面をつくる
  - ④失敗し、試行錯誤から学び取る機会をつくる
  - ⑤「できた」「わかった」を体験させる
- 45分間で勝負する（指導・評価）

（3）取り組みを共振させよう ～伝えよう、巻き込もう～

- 的確な情報提供と情報発信 及び 発信方法の工夫
- HP及び学校メールの活用充実
- 配付物の精選 ～本当に必要なものを確実に届けよう～
- 学校応援団の活用
- ゲストティーチャーの活用

（4）未来につなげよう ～歩みを止めないために～

- OJTの推進
- 人事評価制度の活用
- メンター・メンティー制度の活用
- 協議型・参加型研修の充実
- ワークライフバランスの推進
  - ①在校 月平均45時間以内を目標とする
  - ②年次休暇の計画的な取得（目標：管理職は12日以上、その他は16日以上）
  - ③リフレッシュデー、ふれあいデーの取組
  - ④常に心身のリフレッシュを心掛けよう
- 倫理確立研修の充実（サービスの徹底と事故防止）